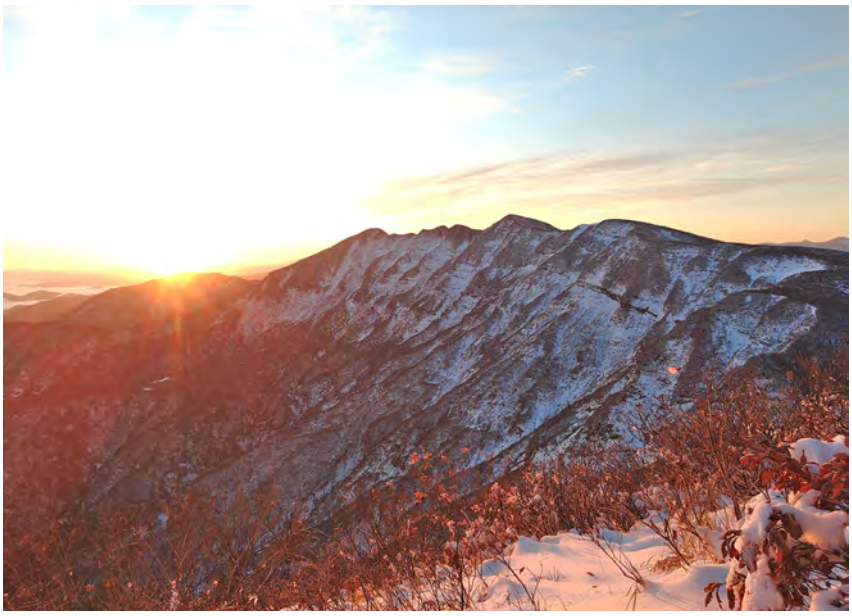
日本山岳会
越後支部報

第 42 号
令和７年２月15日
発　行　公益社団法人日本山岳会越後支部
発行者　後藤 正弘
新潟県上越市新光町２丁目1－40
TEL･FAX 025－512－7561
広報委員長　諏訪 惠一



私の一枚

2024年11月９日今年初めて守門に雪がつもったので、日の出と雪景色を見に保久礼登山口より大岳山頂へ。山頂へ着いてから、しばらくは空色の変化を楽しみました。写真は大岳山頂より袴岳方面からの日の出です。

家から近く良く登る守門ですが、久しぶりの雪景色はまた違って見えました。

この後天気も良い予報なので、袴岳まで久しぶりに踏み跡の無い雪の感触を楽しみました。今年は降り始めは遅いですが雪庇はどのくらいになるか楽しみです。

撮影者　那須　昭裕

次世代リーダー育成と登山講座の提案!!

支部長　後藤　正弘

新年あけましておめでとうございます。

昨年７月25日開催の第67回高頭祭（併催第69回たいまつ登山祭）は、アジア山岳連盟創立30周年記念事業・国際山岳平和祭２０２４の山岳メイン行事として、多くの参加をいただき成功裏に終了することができました。

改めて皆さまのご協力に感謝申し上げます。いくつかの問題が出されていますが、乗り越えながら力強く継続を図っていきたいと思います。

さて、今求められている越後支部の最大課題は、次世代リーダー育成と新入会員獲得にあります。昨年末の理事会で「支部活性化と新入会員獲得について」提案し、承認をいただきました。

以下、提案の概要です。

「支部活性化と新入会員獲得について」を提案する背景として、

(1)　支部組織の年齢構成（２０２２年３月３日）は、80歳以上53名（33％）、70～79歳67名（42％）、60～69歳30名（19％）、59歳以下９名（６％）合計１５９名、平均年齢74歳であり活動の主力は70歳代となっている。

毎年５名程度の新会員があるものの、退会（物故者を含む）が上回っていて減少傾向が続いている。２０２４年９月15日現在　会員数１５０名。

(2)　今年は団塊世代がすべて後期高齢者となる。いわゆる「２０２５年問題」として大きな社会変化が生じる。登山界にとっても避けて通れない問題となっている。

具体的に新規リーダーの育成と大幅な新入会員獲得が急務である。

事業構想概要（案）

(1)　リーダー育成と登山講座について

○２０２５年（令和７）～２０２７年（令和９）の３ケ年計画で実施する。

○初年度は、リーダーの育成に重点をおく。（座学３回と実技２回）

○運営の組織体制は「支部活性化プロジェクト」（仮称）とし、ＹＯＵＴＨ委員会との連携を重視する。

○本部の「特別補助金」に申請する。

(2)　登山講座のイメージ（座学３回と実技２回、地図読み、気象など基礎講座）

今後、三役委員長会議や理事会で事業構想を補強し、総会で決定することにしています。

困難な取り組みですが、避けて通れない課題であり、会員の皆さまのご協力と積極的な意見をお願いいたします。

日本山岳会 年次晩餐会に参加して

佐藤　博

12月7日（土）京王プラザホテルで令和6年度年次晩餐会が開催され参加してきました。

朝8時の新幹線に乗ってトンネルを抜けると雪景色が一転して青空に変わっていました。昼過ぎの受付に少し余裕があったので隣りの東京都庁の展望台に上がり、眼下に立ち並ぶビル群、快晴の関東平野をとりまく山々を一望し、久しぶりに表日本とか裏日本とかという言葉を思い出していました。

会場の受付では時間前なのにかなりの混雑状態で、入口には三列のボディチェックレーンがあって物々しい状況でした。これは記念講演に天皇陛下がご臨席されることになったための対応でした。講演会の会場は、3ブロックに仕切られ両サイドと中央に2本の通路が設定されていました。時間が早かったので、可能な限り前に進み三列目の通路寄りの席を確保しました。案の定、天皇陛下は橋本会長に先導されて入場し中央ブロックの最前列に御着席されたので、その距離は5～6メートルほどでした。

講演会は、テレビでお馴染みの萩原編集長が司会進行をつとめ、日本山岳会120周年記念事業インドヒマラヤ横断踏査隊による報告のほか、秩父宮記念山岳賞受賞記念講演は、酒井治孝京都大学名誉教授「私のヒマラヤ山脈形成史の研究」と中村浩志信州大学名誉教授「蘇った神の鳥雷鳥」のお二人から。最後に山岳写真家の菊池哲男氏から「夜の山に抱かれて撮る山岳夜景」と題した特別講演を拝聴でき、とても貴重で有意義な時間を経験できました。

出席者で記念撮影

講演会が終わり、天皇陛下が退席した後、午後5時から会場を変えて晩餐会が開始となりました。300人ほどの出席者の中には和服姿の女性会員もいて、入会17年目にして初参加の私は華やかな雰囲気に圧倒されっぱなしでした。

ところで11月に越後支部の参加目標数が14名だと知り思い切って手を挙げましたが、当日の出席者名簿に載っていたのは5名だけでした。来年は節目の創立120周年だそうです。是非とも大勢で参加しましょう。

橋本しをり会長の挨拶

令和6年度越後支部 年次晩餐会について

事務局長　玉木大二朗

令和6年度の越後支部年次晩餐会が12月14日（土）、新潟市内・新潟東映ホテルにおいて開催された。

晩餐会は第一部の講演会と第二部の懇親会が行なわれ、講演会は越後支部第6代支部長などを歴任された支部顧問の平田大六様を講師に「山登りと先輩」と題して講演していただいた。講演は越後支部創設に尽力された初代支部長の藤島玄氏の登山や登山記録及び飯豊連峰を始めとした県内山岳の案内等の書籍の執筆活動、更には深田久弥氏との交流等を紹介され非常に興味深い内容であった。今後も第2弾、第3弾の越後支部にかかわりのある諸先輩の紹介をシリーズ化して講演していただきたいものである。

第二部の懇親会は新潟県外の会員や会友からも出席していただき、総勢47名により行われた。懇親会は後藤正弘支部長による主催者挨拶を最初に、本年ご逝去された会員への黙とう、来賓でご出席の新潟県山岳協会長代理の渡辺茂副会長による祝辞、乾杯は遠藤家之進正和支部名誉会員の御発声で懇談が開始された。

また、懇談途中には本部の桐生恒治副会長から最近の日本山岳会の動向について報告があり、更には、本年瑞宝双光章の栄誉を受けられた井 春文会員から褒章功労となった消防団活動について、山菜取りによる捜索活動のご苦労話を紹介していただいた。

次いで数年ぶりに新入会員が晩餐会に出席され、志田貴美子会員、石津智子会員、中條絹枝会員による自己紹介で懇親に花を添えていただいた。

懇親会はあっという間に経過し名残惜しい中、鷲本修一支部顧問の閉会の挨拶により全ての行事を終了した。

次年度の晩餐会は令和7年12月13日（土）の予定であり、支部会員及び会友の皆様は今のうちから支部晩餐会に出席される日程を入れていただき、より多くの方から支部晩餐会に出席していただくようお願い申し上げます。

支部晩餐会集合写真

地域の山

山の面白さが凝縮されている 小さな里山・古峰山（こがらさん）

井　春文

古峰山とは、新潟県南魚沼市姥沢新田にある里山。標高は710m。神字川と姥沢川が両側に流れ、神字川は金山沢、姥沢川は南ノ入り沢となり沢ヤも多く入渓する。以前は百名山巻機山の巻機権現登拝登山道でもあった。巻機権現は尾根頂部の神字入りの頭（神字山1880m）が本山でその石柱がある。そのことは藤島玄の越後の山旅にも記されている。

しかし現在は歩く人は少なく、古峰山登山道から上部は踏み跡が微かに確認できる程度で廃道状態であるが、残雪期割引岳へ、或いは南ノ入沢右俣、金山沢の下山路として使う猛者はいるようである。

多くの人に登られている古峰山であるが、地理院地図にはその記載がない。

山名は、地元有志が江戸時代に栃木県鹿沼市の古峯神社参りをして帰郷した後、山頂に祀った事から来ている。山のある場所が古峰ヶ原

古峰山を望む

（こぶがはら）の地名から古峰ヶ原様と呼ばれ、それが転じて『こがらさん』となったようである。

現在も地元の古峰山友の会が中心となり、毎年お祭りや登山道の整備、秋には紅葉登山も企画している。

細尾根や岩場、ザレ場や梯子があり、急斜面の上り下りにもトラロープが多数ある。

周回ルートには渡渉地点もある。眺望の良さも併せ持ち、小さな山容ながら登山の面白さが凝縮されている。登山ポストはない。

登山口は、姥沢川側学校林登山口（駐車場５～６台）、神字川側台原登山口（駐車スペース２～３台）。どちらから登っても勾配は急だ。登山道は下の連絡道で繋がっているのでどちらからでも周回できる。

しかし、反時計回りだと古峰山山頂からさらに上りになるので、体力的難易度は上がる。山頂往復なら台原登山口だが、学校林から右回りの人が多いので、時間帯によっては時間がかかる場合がある。登山道は整備されていて歩きやすいが、先に記したように全体的に勾配は急で、岩場、ロープ、渡渉と気は抜けない。

しかし、季節ごとの景観は素晴らしい。足元の山野草も豊富で楽しませてくれる。

さて、登山道の地図表記であるが、地理院地図には姥沢川側登山道と稜線を結ぶ道が表記されているが、不明瞭。周回の場合、実際の登山道はもっと上流にあるので、地図アプリ、ＳＮＳ等で確認をして入るとよい。

古峰山ルート図

「郷土の大先輩　高頭仁兵衛翁」にまなぶ

深沢小学校で講演会（９月20日開催）

支部長　後藤　正弘

この講演会は、遠藤家之進正和支部長の時代に深沢小学校からの依頼で始まり、桐生支部長から私に講師が引き継がれた。

全校生徒26名（複式学級）が対象である。

高頭仁兵衛翁の生い立ち、功績、弥彦山登山の準備についてパワーポイントで話をするのだが、子どもたちへどう伝えるか試行錯誤の連続である。

「自分の好きなことを見つけること」そして「夢を持つこと」の大切さを強調しているが果たしてどうだろうか？

毎年やることに意義があると考えたい。

深沢小学校舎

後藤支部長と深沢小の生徒たち

弥彦山登山支援（９月25日実施）

諏訪　惠一

後藤支部長の講演に続いて翌週に１年から６年までの全校生徒と先生の弥彦山登山の支援を行った。

山頂を目指す生徒たち

彌彦神社奥社参拝

生徒26名を支部会員４名を含む６名で能登見平から弥彦山山頂を経て大平園地の高頭仁兵衛翁の碑まで３班に分け引率する。

まず、出発前にリュックサックはできるだけ上になるように背負い、喉が渇く前に水を飲むなどの注意を行って出発した。

途中子供たちからこの花の名前は何？などの質問に答えたりしながら２時間ほどで無事大平園地に着いた。

そこから見える遠くの山々を説明したが、何人の子供が山に興味を持ってくれるだろうか。

令和６年ＮＳＴ「弥彦山フェスティバル」について

事業委員長　小山　一夫

令和６年の「弥彦山フェスティバル」が10月13日（日）約６００名参加で開催されました。スポーツの日の行事として「健康維持とスポーツを楽しむ」を目的に弥彦周辺ウォーキングとして開催されていた行事をＮＳＴが引継ぎ「弥彦山フェスティバル」を開催していましたが、コロナの影響で中止していました。

昨年から再開されましたが、弥彦山登山を中心的に運営してきた「弥彦山岳会」会員の減少等で越後支部に応援要請が有りました。昨年は準備等の不足で少数で応援しましたが、今年は公益事業の観点から後藤支部長以下10名のサポート体制で協力しました。

当日は晴天の中、弥彦公園のヤホールで開会式が開催され、弥彦村村長等の挨拶があり、ご当地アイドルの見送りをうけ３班に分かれてフェスティバル会場の大平園地に向けて登山を開始しました。

一つの班が２００名と大人数で統制的には問題があると思います。低年齢から高齢の参加者、途中からロープウェイで行く参加者も有りました。無線で出来るだけ９合目の誘導者に連絡を取りましたが、つかみきれない部分が有りました。今後の問題点だと思います。

フェスティバル参加者の列

フェスティバルイベント風景

かなりの回数を開催している「弥彦山フェスティバル」ですが、今迄大きな事故も無く開催してきましたが、サポート体制を強化する必要性を感じました。

脱落者なく大平園地で豚汁とおにぎりの支給が有り、抽選会を開催し、下山となりました。大平園地より私達は最後に下山しましたが、９合目に向かう参加者の隊列は一本につながり見応えありました。

今後とも協力体制をよく打ち合わせ、公益事業のあり方を検討する必要性を痛感しました。

新入支部会員紹介

今年度上期に越後支部へ入会・転籍された皆さんです。自己紹介をしていただきましたので、支部山行以外でも山でお会いしたらお声がけをお願いします。

なお、支部入会順に敬称略で紹介いたします。

石井和春

会員番号１６６６６　２０２４年４月から、越後支部に入会しました石井和春（65歳）と申します。

２０２３年までは埼玉支部で、活動していましたが、日本海の夕日の美しさに魅了され、２０２２年に出雲崎町の海の真ん前の古民家を手に入れ、月の１／３は新潟暮らしです。

冬は、テレマークスキーで、山麓を徘徊するのが好きなので、越後支部の山スキー同好会にも参加させて頂いています。

どうぞよろしくお願いします。

伊藤香代子

会員番号１７２２９　準会員で入会し、本年度正会員に移行しました。入会当初は県内広域に多数の会員さんがいる大きな組織に参加していけるか、と不安でした。

行事に声をかけて頂き参加すると昔からの山友だちだったかの様な雰囲気で、何よりもベテランの方々の中で安心できる居心地の良い場でした。

これからも御指導して頂きながら、無理しない安全登山を楽しみたいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

川島万里子

会員番号１６７６０　山梨より移り住み３年がたち、今年度より山梨支部より正式に越後支部に移動させて頂きました。

この３年今までいた八ヶ岳の麓とは全てが違い日々驚きの連続です。優しい新潟の人々との触れ合い、雪の量、山の深さ、お花の種類、山菜！

昨年度の秋、日本百名山を達成しほっとし、これからは里山や先人達の歩いた古道山城などをじっくり歩く山旅にしたいと思っています。

志田貴美子

会員番号１７３０９　夢にも思っていなかった日本山岳会への入会、私には遠く手の届かないハードルの高い存在でした。

入る資格があるのだろうか？と不安でしたが、背中を押してくれた会員の方に励まされ一歩を踏み出しました。

加茂市に住んでいます。周りは山だらけ。既に高齢者、安全第一に、謙虚な気もちを忘れずに山歩きを楽しみたいと思います。

先輩の皆様とご一緒出来る時もあるかと思います。ご指導よろしくお願い致します。

原　渉

会員番号１７３１３　この度、歴史ある日本山岳会に入会することを認めていただき、有難うございます。その名に恥じないように、活動して参りたいと存じます。

簡単ではありますが、自己紹介をさせていただきます。数年前、当時小学生の息子にせがまれて、火打山にライチョウを探しに行った事が、山を登り始めたきっかけとなります。それまで、登山の経験は殆どなく、標準的な中年男の生活を送っておりましたので、運動不足は積み重なっておりましたが、登ってみると案外楽しく、また、頂上からの非日常な景色にすっかり心を奪われ、それ以来、どこかの山に出没しております。

元々スキーが趣味でしたが、登山を始めたことで山スキーの扉も開き、この歳になっても刺激的な活動が出来ることに幸せを感じております。これからは、皆様に教えを請いながら、安全に留意し、山を楽しんでいきたいと存じます。

２０２４年度 自然保護全国集会報告

自然保護委員長　春日　良樹

①期日：11月３日～４日
②会場：ＴＫＳ新宿カンファレンスセンター及び新宿御苑

１日目

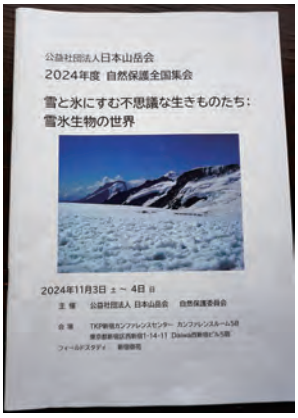
○下野綾子自然保護委員長挨拶
○基調講演
「雪と氷にすむ不思議な生きものたち・雪氷生物の世界」
千葉大学理学部地球科学科　竹内　望教授

春の山で観察したことがある赤色の雪の正体や極地・高山のような極限世界に生息するミジンコ、ミミズ、クマムシ、光合成藻類やバクテリアなどの生態について興味深く拝聴した。世界有数の豪雪地帯である日本列島は、雪氷生物の宝庫であり、随所で雪上で繁殖する藻類による赤雪現象が見られる。

しかし、昨今の地球温暖化により世界各地の積雪や氷河が減少する中、生息地を失う雪氷生物は最も絶滅の危機にある生物群の１つといえる。また、雪氷生物は極限世界で生活するのみでなく、生活環境そのものに強く影響を与えることから、惑星探査が進む今日、地球外生命探査のモデル生物となることも分かってきた。雪氷生態学は、日本の雪山の調査から始まり地球や宇宙にまで広がる新しい学問の世界であった。

○各支部の取組発表

紙上発表のみの支部を含め15支部から取組状況について報告があった。しかし、発表内容は、当支部を含め昨年度と同様で新鮮味に欠けるものが多いように感じた。理由は、自然保護活動の性質上、継続した取組が多く、森作り、登山道整備、外来種駆除など単年や数年で完結することが少ないためである。取組上の問題点や解決策等について話し合ったり意見を述べ合ったりするなど、参加者が主体的に活動できる場が構成できると面白いと思いながら拝聴し



自然保護全国集会資料

た。【当支部からは、小野寺昭彦自然保護副委員長が執筆した報告文に加筆したものを発表＝支部ＨＰ参照】

２日目

○フィールドスタディ（新宿御苑＝欠席）

③次年度の自然保護全国集会について

○開催期日　２０２５年10月18日（土）～19日（日）

○会場：妙高高原メッセ及び笹ヶ峰高原

○講演：ライチョウ保全の取組について

子細は、次号越後支部報や支部ＨＰでお知らせします。多くの支部会員の皆様の参加を期待しております。

フォットスケッチ同好会活動報告

会長　遠藤　俊一

本会は四季織りなす山々の素晴らしい風景を切り取ろうと年２回ほど撮影山行を実施している同好者の会です。現在14名の会員で活動しています。

越後支部は支部会則で活動地域を主として県内とその周辺地域と限定していますが、それに限定されることなく、広く日本の山々の四季を切り取ろうと活動しています。入会希望の方は遠藤迄連絡ください。

今年度は、令和６年10月に尾瀬山行を９名で実施しました。鳩待峠から入山し、山ノ鼻から尾瀬ヶ原の草紅葉や池塘を撮影しながら下田代へ。さらに紅葉に映える森を抜けて平滑ノ滝まで往復して下田代の山小屋に１泊。翌日は、霧の尾瀬ヶ原を抜けて、山ノ鼻から至仏山を登り鳩待峠へと下った。よい天候に恵まれた２日間であった。

尾瀬ヶ原から至仏山を望む

令和７年３月には、北八ヶ岳の高見石小屋に１泊し、白駒ノ池や東天狗岳を巡り、雪の中に眠る池や八ヶ岳の変化に富んだ雪山を撮影することにしている。

令和７年度は、10月上旬に上高地から横尾を経て涸沢や奥穂高岳の紅葉撮影山行。１月下旬には大菩薩峠介山荘に泊まり、朝日に輝く黎明の富士山撮影山行を予定している。

朝霧に包まれた尾瀬ヶ原

秋の池塘を撮影

アルパインスキー同好会活動報告

会長　廣井　博行

昨年度は２０２３年12月16日～17日に設立総会を妙高燕温泉にて参加者10名で実施し、長野県、群馬県からもメンバーが集結し、自己紹介後、雪崩発生メカニズムの講習や捜索活動の現実等学習を行いその後懇親会で懇親を深めた。その他の活動は次の通りである。

２０２４年１月27日には田代スキー場で参加者７名、計画当初は東谷山を予定していましたが小雪の為に変更する。

２月11日に上越菱ガ岳で参加者８名、キューピットバレイスキー場のトップよりハイクアップし12時頃山頂到着視界はあまり良くないがその分素晴らしいパウダースキーを楽しむ事が出来た。

３月３日に妙高三田原山で参加者10名、当日は雪崩注意報が発令中なので予定を杉野沢スキー場トップより少し下部の脇のツリーランに変更することとなった。短めのコースだが難しかった。

４月27日～28日に月山で参加者５名、今年度の計画の前倒し。月山スキー場トップよりシールを付けて山頂で昼食後、全山オープンバーンの楽しい滑走ができました。翌日は黄砂の影響でコンディションが悪く１本滑って終了とした。

設立総会の様子

活動の様子

米山山頂が見える

弥彦山龍神の滝にて

今年度の計画は次の通りである。

２０２４年12月22日に苗場スキー場若しくは神楽スキー場で計画したが中止となった。

２０２５年１月26日　東谷山山スキー

２月９日　上越早川谷方面山スキー

３月２日　浅草岳若しくは守門岳山スキー

４月26～27日立山若しくは鳥海山山スキー

なお、日時は確定しているが場所については今後メンバーとの相談で変更の可能性がある。

スキーはとても楽しく、年齢に関係なく滑ることができます。多くの会員の参加をお願いします。

幸いに当クラブには指導員資格者が在籍しており、安全第一で活動をしております。

スノートレッキング同好会からのお知らせ

会長　松井　潤次

昨年度は米山が前日の降雪による新雪で途中下山になったり、小雪で弥彦山や三ノ峠山がスノーシューを履くほどの積雪もなく雪上歩行、雪上ハイクとなりました。

また、今年度は12月の「米山山行」は大雪警報で中止になりましたが、１月13日の「弥彦山山行」（発行時実施済み）、２月23日の「山本山山行」を計画通り実施の予定です。

なお、来年度につきましても、２０２５年12月（上越地域）、２０２６年１月（下越地域）、２月（中越地域）で低山、里山を中心に安全な山行を予定しています。

山行計画は事前に支部ＨＰに掲載しますのでご覧ください。

会員皆様の地区より推しの山域があればご連絡お願いいたします。

第11回中部ブロック４支部交流会参加

佐藤　レイ子

第11回中部ブロック４支部交流会が11月16、17日、今年は山梨支部主催で、八ヶ岳南麓清里高原清泉寮で開催され、越後支部からは、桐生副会長、後藤支部長、山田山研管理人、私の４人で参加しました。

清泉寮は、一時閉鎖されていたのをポール・ラッシュ博士により再建されたが、昭和30年に焼失、32年に現在の本館が建てられた由緒ある建物です。目の前に富士山が聳え、また西に北岳や甲斐駒ヶ岳、東に金峰山、北側に八ヶ岳と景勝の地にあり、細長い複雑な建物は部屋から会場に行くにも迷うほどです。

16日、13時40分、山梨支部21名、信濃支部８名、静岡支部９名、総勢42名が集まり交流会がスタートです。

まず、山梨支部小宮山稔幹事の歓迎の挨拶から始まり、古屋寿隆支部長の主催者挨拶があり、その後、各支部の年間活動状況が発表された。

越後支部では、ＵＡＡＡ30周年記念国際山岳平和祭があり、７月25日高頭祭と弥彦山たいまつ登山祭に参加、翌26日に長岡で記念式典・祝賀会が開催された件や自然保護活動、その他支部行事等が報告されました。

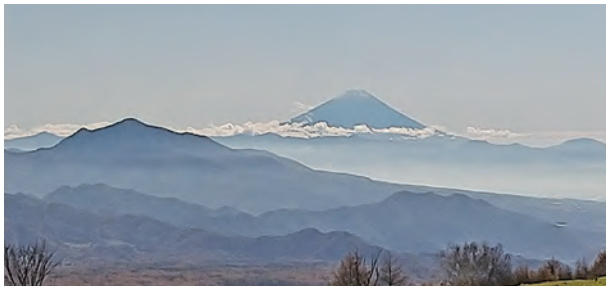
牧場から権現岳を望む

各支部共通の問題として、会員の高齢化や減少、新入会員の獲得の難しさである。山梨支部では「初心者向け登山基礎講座」を開催することが新入会員獲得につながっているとのこと。会の活動を活発化し魅力ある会にすることが喫緊の課題です。

その後、山梨支部矢﨑茂男理事による「古屋五郎―山と人を愛した男―」と題しての講演がありました。初めて耳にする名前で、古屋五郎は甲斐駒ヶ岳の麓に生まれ南アルプス国立公園制定に関わり、登山道や山小屋の整備に尽力した人とのこと。

18時30分、入浴を済ませ、懇親会の始まりです。ビュッフェ形式で歓談の後、全員の自己紹介で盛り上がり二次会会場に移動し22時30分まで続きました。01会（３年前に解散）や各支部のかたと親交を深めることができとても有意義でした。

17日、心配した夜来の雨も上がり、この時期にしては暖かく、絶好の登山日和となり周りの山々を全部望むことができます。車に分乗し、美の森駐車場へ向かい８時30分グループ毎に登山開始です。まず長い階段が続き、途中で振り返ると富士山や南アルプスの山々が大パノラマとなっていて感激です。湿原の広がる羽衣の池に出て急登は終り緩やかな道となる。ここから赤岳に登るルートもあると教えていただきました。途中、川俣川東沢を渡渉する。山梨支部の若い人がザックにぶら下げている物は「ココヘリ」とのこと。昔はＧＰＳとアマチュア無線だったのに、今はスマホとココヘリに変わった。



富士山・南アの大パノラマ

広大な八ヶ岳牧場を横切る。１週間前に牛たちは下山したばかりとのこと。

清里に着いて最初に行った「清里の森」の紅葉は素晴らしかったが、この辺りの木々はすっかり葉を落とし、その代わりサワフタギの黒い実やツルウメモドキの赤い実が秋を彩っていた。

展望台で周りの山々の見納めをし、八ヶ岳横断道路に下り、赤い東沢大橋と主峰赤岳をバックに記念写真を撮り、12時、清泉寮に戻りました。

事務局からのお知らせ

●支部会員動向（令和６年10月～12月）

1　新入会員
　石津　智子（会員番号１７３５４）
　中條　絹枝（会員番号１７３５６）
2　退会会員
　佐藤　弘（会員番号１１４４０）
3　物故会員
　炭田　秀昭（会員番号１５４８４）
4　支部会員数（令和６年12月末現在）
　支部会員（準会員含む）１５０名
　支部会友　８名

広報委員会からのお願い

いつも越後支部報および越後支部ホームページへ寄稿いただきありがとうございます。

皆様からお送りいただいた写真をきれいに見ていただくために次の点をご協力いただけますようお願いいたします。

●原稿をワードなどのデータでお送りいただく際は、文章ファイルとは別に写真を単独の別ファイルでもお送りください。

●写真のファイルサイズを１ＭＢ以上でお送りください。

よろしくお願いいたします。

編集後記

年末年始とその後にかけて幾度か今季最大の寒波襲来との予報が出されたが、一転して１月後半は10年に１度レベルの「かなりの高温」とのことらしい。果たしてこの号が発行されるときにはどうなっていることか。

気象だけでなく、「長岡平野西縁断層帯」でマグニチュード８程度の地震が30年以内に発生する確率が、２０２４年までの「２％以下」のＡランク（やや高い）から「３％以下」のＳランク（高い）に引き上げられた。

20年前の中越地震では電気・ガス・水道が止まり家の中で邪魔者にされていた山道具にも日の目が当って認知度が上がり市民権を得たが、今はその恩恵が忘れ去られたように思う。

いつ起こるかわからない災害に備え、安全山行のための装備に防災の視点も加えて常に点検・整備を怠らないようにしたいものである。

（諏訪恵一）